

# 令和8年度 音楽部会研究計画

## 1 研究主題

### 感じよう 伝えよう 響かせよう

—音楽的な見方・考え方を働かせ音楽のよさを味わう学習を目指して—

## 2 研究主題について

現代は、国際情勢の不安定化、生成A I等のデジタル技術の急激な進化など、予測困難な時代と言われている。また、児童が抱える課題や困難が多様化、複雑化する中で、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が課題となっている。その現状に向き合い、社会の持続的な発展と、個人と社会のウェルビーイングの相互循環を実現するため、よりよく学び続ける人材の育成が求められている。さらに学校教育において、児童の十分な学びを確保し、一人一人の特性や段階に応じた指導や支援を一層充実させていくことが重要である。

音楽科では、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成を目指している。音楽の学習において、児童は、心を解放して表現する楽しさや、美しい音楽にふれる喜びを感じることができる。また、友達と一緒に歌ったり、演奏したりする活動を通して、仲間とともに表現を創り出す喜び、自分や友達の声や音が響き合う心地よさや感動を味わうことができる。そして、友達と音楽を演奏する中で、友達の音を聴きながら自分の表現を工夫するなど、他者への気付きや全体の調和を感じ、心地よい関係性を築く力を身に付けることができる。さらに、日本や諸外国の音楽に触れ、それぞれの背景にある多様な価値観を見出すことができる。このように、児童が音楽科の学びを通して得た感動や経験は、自らの生活の中の美しさや喜びを感じ取り、他者と豊かに関わり合いながら、生活を明るく潤いあるものにしようとする原動力となる。さらに、それが学校や家庭、地域社会へと広がり、お互いを認め合い支え合う温かい社会の実現につながっていくのである。

音楽部会では、平成30年度から、「伝え合おう 音と心のハーモニー —ともに関わり分かち合い 心に響く音楽学習—」と掲げ、実践研究を行ってきた。令和7年度は、第38回徳島県小学校音楽教育研究大会を、勝浦郡横瀬小学校で開催し、研究の成果を発揮することができた。

そこでは、友達と声を合わせて体全体で表現する姿、自分たちの音楽をつくりあげるために考えを出し合う姿、音楽を聴いてそのよさを共感し合う姿など、児童が仲間とともに音楽の喜びを味わおうとする様子が見られた。また、課題意識や学習の見通しをもち、学習を振り返ることにより、自分の変容を自覚する姿や、自らの学習を調整しようとする姿も多く見られた。この成果をもとに今後さらに、音楽科の授業の学びを生かし、音楽が自らの生活を豊かにするという実感をもち、進んで音楽と関わろうとする児童を育てていきたい。

以上のことを踏まえ、今年度の研究主題を「感じよう 伝えよう 響かせよう—音楽的な

見方・考え方を働かせ音楽のよさを味わう学習を目指して一」と定めた。

研究主題の「感じよう」とは、音楽のよさや美しさを感じ取ることである。「伝えよう」とは、「感じたこと」をもとに、自分のイメージや感情、音楽への思いを言葉で伝えたり、そのイメージや思いを音楽で表現したりすることである。「響かせよう」とは、「伝えたこと」をもとに、友達などと感性を豊かに働かせながら音や音楽を表現・鑑賞し、音楽への気付きや感じ方を広げたり深めたりし、そのよさを味わうことである。また、児童が生活や社会の音や音楽と主体的に関わっていくことである。

また、副題にある「音楽的な見方・考え方を働かせ」とは、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けることである。「音楽のよさを味わう」とは、「感じ、伝え、響かせる」ことにより、音の関わり合いが生み出す楽しさや美しさを捉えたり、友達と一緒に奏で響き合わせたときの一体感を味わったりすることである。

この研究を通して、「感じ、伝え、響かせる」ことを積み重ね、自分の成長を実感しながら音楽のよさを深く味わい、生涯にわたり音楽を愛好し、心豊かな生活を送ることができる児童を育てていきたい。

この研究主題の実現のために、これまでの研究の成果・課題や各都市における実践を踏まえて、次に示す内容と方法により研究を深めることとする。

### 3 研究の内容と方法

#### (1) 児童の実態に応じた適切な指導計画と題材構成を工夫する

指導計画の作成に当たって留意すべきことは、系統性、連続性、バランスに加え、各領域や各分野、他教科等との関連である。学習内容は、各学年の発達段階に応じたものであるとともに、児童の実態を考慮することが大切である。作成に当たっては、それぞれの学年で指導する内容の系統性を踏まえるとともに、音楽活動の基礎的な能力が身に付くように、連続性を重視して計画する。教科等横断的な視点においては、他教科等との関連性を手掛かりにするなど、児童が楽しく学ぶことができるようにする。

また、題材構成においては、〔共通事項〕を要として、表現・鑑賞の領域や各分野を適切に関連させ、思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を焦点化することが大切である。教材研究を行った上で、楽曲のよさを生み出している要素に焦点を当てることにより、学びのねらいを明確にする。このことにより、児童はこれまでの学習とのつながりを実感し、音楽的な見方・考え方を働かせながら、より深く音楽に親しむことができるようになると思われる。

#### (2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る

それぞれの視点から、以下のことに留意して授業改善を図り、児童の資質・能力を育成する。

「主体的な学び」とは、児童が学習の見通しをもち、学習したことを自ら振り返り、こ

れまでの学びや自身の学びの変容を自覚し、次の学びにつなげるようにすることである。そこで、教材となる音楽と児童との出会いを工夫することにより、学びの対象への興味・関心を引き出し、児童の「面白そうだ」「もっと知りたい」「できるようになりたい」という気持ちを喚起する。また、児童が見通しをもって、粘り強く取り組めるようにすることにより、題材全体から、何を学び、何ができるようになればよいのかを考えることができるようにする。さらに、スモールステップでの活動などを工夫して、最後まで取り組めるように配慮する。そして、振り返りを適切に位置付けることにより、児童が、学んだことの意味や価値などを自覚し、さらに学んでいきたいという気持ちをもてるようにする。

「対話的な学び」とは、仲間や教師、地域の方と関わったり、作詞者や作曲家の思いを想像したりすることを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることである。そこで、児童が友達の聴き取ったことや感じ取ったことに触れて、自分では気付かなかった音楽のよさに気づき、自らが考えた音楽表現の工夫を一生懸命に友達に伝えていく中で、自らの考えを深めていけるような学習活動を仕組んでいく。その際、ペアやグループ、教師との対話など、学習形態を工夫する。

「深い学び」とは、音楽的な見方・考え方を働かせ、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、楽曲への理解を深め、表現を工夫したりよさなどを見いだして聴いたりすることである。ここでは、児童が音や音楽をどのように感じているのか、それはどのような要素や働きと関わっているのかを考えることが大切である。そして、その音楽が自分自身を含む多くの人たちの生活や文化の中でどのような意味や価値があるのかを学ぶことができるようにする。

### (3) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る

「個別最適な学び」とは、児童一人一人の興味・関心や学習特性を踏まえながら、学習活動を最適化していく学びのことである。ここでは、教師による丁寧な見取りや児童の多様な学びに対する適切な支援に加え、内容や時間のまとまりを見通したきめ細やかな学習の設計が必要になる。児童が感性を働かせて様々な学習の方法を身に付けようとしているか、学習の振り返りを活用しようとしているかなどの視点に立ち、学習環境を整えていくことが重要となる。また、必要に応じてICTも効果的に活用しつつ、教材や発問、多様な学びに応じた支援、学習環境の工夫などの手立てを用意する。

「協働的な学び」とは、音楽的な活動を通して、友達や教師、地域の方など、多様な他者と関わるという、これまでも音楽科が大事にしてきた学びである。一人一人のよい点や可能性を生かすことにより、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出すことができるようにする。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが大切である。また、児童の実態を踏まえながら、一人一人の学びの過程を見通し、全ての児童が目標を達成できるよう、個別、グループ、全体のそれぞれの学習の場面を効果的に組み合わせる授業を展開していく。

#### (4) 指導と評価の一体化を図る

「指導と評価の一体化」とは、指導と評価は表裏一体の関係にあり、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることである。このような「指導と評価の一体化」を進めるためには、評価活動を評価のための評価に終わらせることなく、指導の改善に生かすことによって授業の質を高めることが一層重要となる。

以下に、音楽科における「指導と評価の一体化」に向けてのポイントを挙げる。

- ・ 育成を目指す資質・能力を明確にし、それに基づいた評価を適切に行う。
- ・ 思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を明確にする。
- ・ 記述、発言、観察、演奏の聴取など、多様な評価方法を工夫する。
- ・ 記録に残す評価は、題材での内容や時間のまとまりを見通しながら適切なタイミングで行うなど、その場面を精選する。
- ・ 指導に生かす評価は、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握し、発問、板書、個別の支援など指導の改善に生かす。

#### (5) ICTの効果的な活用の工夫をする

ICTは、音楽科の学習の目標や授業のねらいに応じて用いるようにし、児童が感性を働かせたり、思考を活性化したりすることができるよう配慮する。

ICTの利点は、聴覚と視覚の両方から音楽を捉え、音楽表現を工夫したり、音楽を聴き深めたりすることができることである。例えば、タブレットのアプリを使って音や音楽を可視化したり、楽器がなくても、演奏したり作曲の体験をしたりするなど、音楽科の学びの特性に即したデジタル学習基盤の活用には様々な可能性がある。そして、児童が自分の音楽表現や学びに合った端末の活用方法を見いだせるようにすることが大切である。しかし、使用に当たっては、ICTの操作そのものが目的化しないように留意するとともに、学習内容の理解や、主体的な学びにつながるよう、どのような学習場面においてどのように用いるのかなど、効果的な活用方法を工夫していくことが重要である。

また、著作物を活用して資料を作成・提示する際は、楽曲名、作曲家名、出典元などの情報を明記すること等、著作権に十分に配慮する。撮影や録音についても、目的やルールを明確にし、肖像権にも配慮する。

#### (6) 我が国や郷土の音楽の指導方法を工夫する

我が国や郷土の音楽の指導に当たっては、そのよさを味わい、愛着をもつことができるよう、次の点に留意する。

児童や学校・地域の実態を十分に考慮するとともに、地域に伝わる音楽を手掛かりにし、学校と地域が一体となった音楽活動を展開する。また、我が国や郷土の音楽を題材にした学習を展開することにより、児童が伝統音楽を受け継ぎ発展させるきっかけづくりとなるようにする。そのためには、児童が我が国や郷土のよさを感じ取ることができるように、音源や楽譜等についての教材研究を深め、それを指導に生かすような工夫等が必要である。また、教科等横断的な視点で他教科等との学びを結び付けることにより、音楽

を歴史、風土、言語などの背景と関連付けて捉え、生活や文化との関わりの中で音楽のよさを実感させることも重要である。

## (参考) 低・中・高学年の目標

### (1) 「知識及び技能」について

- ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて (低・中) 気付く (高) 理解する。
- ・ (低) 音楽表現を楽しむ (中・高) 表したい音楽表現をする ために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。

### (2) 「思考力、判断力、表現力等」について

- ・表現領域では、音楽表現を考えて表現に対する (低) 思い (中・高) 思いや意図 をもつことや、鑑賞領域では、曲や演奏の (低) 楽しさ (中・高) よさなど を見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。

### (3) 「学びに向かう力、人間性等」について

- ・ (低) 楽しく (中) 進んで (高) 主体的に 音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを (低・中) 感じながら (高) 味わいながら、 (低) 身の回りの様々な音楽 (中・高) 様々な音楽 に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。

## 引用・参考文献

- 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編」 平成29年7月  
山下薫子「平成29年度版 小学校新学習指導要領ポイント総整理 音楽」東洋館出版社  
平成29年10月  
国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」  
東洋館出版社 令和2年3月  
文部科学省「教育の情報化に関する手引-追補版-」 令和2年6月  
中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」 令和3年3月  
佐賀県教育センター「授業づくりQ&A」 令和4年  
副島和久「小学校音楽科における学習指導・学習評価についての考え方」教育芸術社  
令和5年5月  
文部科学省「教育振興基本計画」 令和5年6月  
「初等教育資料 2024年 4月号 No. 1045」東洋館出版社 令和6年4月  
「初等教育資料 2025年 8月号 No. 1062」東洋館出版社 令和7年8月  
「初等教育資料 2025年10月号 No. 1064」東洋館出版社 令和7年10月  
「令和7年度 全日本音楽教育研究会全国大会（総合大会）第66回九州音楽教育研究大会 佐賀大会 大会要項」 令和7年10月  
勝浦町横瀬小学校「第38回 徳島県小学校音楽教育研究大会 研究集録」 令和7年11月